

**福岡県移住者子弟留学生**

**第3回報告書（12月）**

**テーマ**

**「勉強のこと」**

## ブラジル福岡県人会 渋谷 フェルナンダ えりか

### 西日本短期大学 メディアプロモーション学科

私は、西日本短期大学のメディアプロモーション学科で、歌舞伎、宝塚、能、狂言、現代日本演劇など、日本の演劇に関することを研究しています。

前期には、宝塚劇場に所属する女優が出演している、かぐや姫の物語を題材にした現代日本演劇を観に行きました。演劇の中で歌う部分がありましたが、ミュージカルとはまた異なるものでした。ブラジルにも演劇等がありますが、日本の演劇を観て1番の大きな違いと感じたのは、観客の態度についてです。ブラジルでは、演劇中に写真撮影や録画が許可されていますが、日本は、フラッシュなしでも写真撮影や録画が禁止されていて、とても驚きました。しかし、公演が始まる前に写真撮影や録画の可否が告げられること、芝居を始める合図があること、役者が舞台上がる準備をすること、役者が舞台上がる前に照明が消されること、最後に役者が全員集まって観客が写真を撮れるようにすることなどは似ているなと思いました。

衣装についても、日本は物語に合わせて非常によく構成されており、物語が語られた時代を彷彿とさせる工夫がされていました。

いろいろな日本の演劇の中でも私は特に歌舞伎に興味があり、今回の留学で初めて観ることができました。歌舞伎は、今まで観た様々な芝居と全く違うものだなと思いました。

役者たちは舞台の上手な位置に配置され、マイクを使わず地声で演じているのにもかかわらず、観客席すべてに聞こえていて、とても驚きました。観客席の隣では、劇団員がアクションやストーリーの一部をナレーションしています。舞台上で使われるセリフは古語に基づいており、日本人でも理解しにくい言葉もありますが、役者や登場人物の説明、戯曲のあらすじなどが書かれた冊子が売られているので、舞台上で何を言っているのかわからなくても、それを見ながら観ることができます。

歌舞伎は、主に3幕に分かれ、20分ほどのインターバルが2回あります。舞台には花道があり、客席の近くまで役者が来て演じる姿がとても印象的でした。

第3幕の終盤では、主役の決意を示すような演出で花道を進む場面では、生演奏の音楽と役者の声がバックに流れるなど、サウンドデザインがより存在感を増していて、とても感銘を受けました。

私は博多座で歌舞伎などをみましたが、チケット引き換え後の1階には、お土産や食べ物、着物や和装小物を購入できるコーナーがあり、日本の和の空間がとても気に入りました。

後期には、歌舞伎だけではなく、能や狂言についても勉強し、実際に観ることができました。能と狂言は似ているようにみえますが、能は悲劇、狂言は喜劇であることが大きな違いだと思います。狂言は喜劇かつ言語劇であるため、能ほど音楽は流れませんが、それでもサウンドデザインはあり、役者が舞台に立っている間、劇団の音楽家が観客のために生演奏することが印象的でした。

ブラジルに居た時から興味があった日本の伝統的な演劇について座学だけでなく実際に見学したり授業に参加したりすることができてとても学校生活が充実しています。これから残り少ないですが、もっと深く研究していきたいです。

## パラグアイ福岡県人会

淵脇 健

九州大学 法学部

僕は、現在、九州大学の法学部で勉強しています。

専門は会社法です。会社法は会社の規則、権利、義務を規定する規制の法律の枠組みです。日本には僕の母国に存在しない、または運営されていない種類の企業が二つあり、同じく似ている企業も二つあります。これは会社の目標や株主によってどの会社を設立したら良いのかと考えられます。

今まで勉強してきたのは株式会社、合同会社、合名会社、合資会社、有限責任事業組合です。この中で一番多い形態は、株式会社と合同会社です。株式会社は日本で最も広く知られ、信頼できるタイプの企業構造です。2015年3月に導入された会社法の改正により、日本での登記/設立には日本の住所のみが必要となります。株主と取締役はすべて非居住者であってもよく、日本居住者であることが必須ではないという点が興味深いと思います。これはパラグアイと違って、パラグアイでは取締役会の少なくとも1人のメンバーは国内に居住することが必須です。この例のようにパラグアイの会社法と日本の会社法には異なる部分もありますが、本質的には似ているところが多いと思います。例えば、株式会社の作成や形成、設立の方法や会社の目的、定款の内容、株式、規則、株主の責任や義務、株主総会と取締役会の機能、資本金、すべて本質的に似ていると思います。

しかし、今まで勉強してきた気づいたのは日本の会社法はおそらく、パラグアイに比べて、より完全かつ詳細だとも思います。これは日本の企業の規模がパラグアイで事業を展開している企業よりもはるかに大きいという事実によるものだと個人的には考えています。

これまで、九州大学で約10か月勉強してきましたが、日本語の授業なので、ペースについていくのが難しく、もっと理解できればよかったと思い、少し悔しいです。しかし、先生が素晴らしい先生だと心から信じています、そして先生のクラスの方法論と知識の表現方法が本当に大好きです。最近、会社法の技術的な部分の勉強を終え、現在は個人的にとっても興味のある日本社会で起きている法的問題について発表したり、ゼミで議論したりしています。なぜ個人的に興味深いかというと、現在ゼミなどで議論している内容は、来日する前にパラグアイで働いていた法律事務所でも発生する可能性がある問題であるからです。

現在、ゼミで議論している法的問題の1つは、パラグアイでも話されているジャニーズ事件です。この主な議論は、会社のレピュテーション（評判）を取り戻し、この事件の被害者に補償するために会社がとるべき最善の選択肢は何か？ということでした。僕もパラグアイの法的観点から貢献することで、この議論に参加することができてとても嬉しかったです。このような議論をすることができるのでは、非常に興味深いです。なぜなら、たとえ技術的な部分が

重要であっても、法律の技術的な部分を日々の実務に当てはめることができることがさらに重要だと思っているからです。これが法律実務の最も難しい部分であり、弁護士が習得すべき最高のスキルの1つだと個人的に思っているからです。

残り少ないですが、九州大学でより多くの知識を身に着け、帰国後にはパラグアイで今回勉強したことを活かしていきたいと思います。

## パラグアイ福岡県人会 熊谷 山本 マルガリタ 春花

### 九州大学 経済学部

4月から中本龍市先生のもとで、九州大学伊都キャンパスで経済の勉強をすることになりました。メキシコの留学生である愛子ちゃんと一緒に通っています。

最初の日はとても緊張をしていたけど、先生はとてもやさしく接してくれて、ゼミナールの流れや内容を説明してくれました。中本先生のゼミでは15人位の生徒がいて、自己紹介もしました。

前期講義は企業に必要な戦略や経営戦略プロセスに関する内容でした。経営戦略プロセスはまず初めにミッションを達成するために計画を立てて、その後目標を選びます。そこから外部環境と内部環境の分析を行います。外部環境では、社会や政治、市場や競合他社などを分析し、内部環境では、人、モノ、金、情報を分析します。分析をした後は戦略を考えて選択し、実行をして競争優位を取得します。競争優位とは企業が競合他社よりも多くの利益を生み出すことです。

他にも、九州大学で行われたセミナーに参加することができました。テーマは、イオン九州のSDGs実現に向けた挑戦でした。そこではイオンの様々な取り組みや実際に行われているプロジェクトについて具体的に知ることができました。また、グループに分かれて色々な意見や、SDGsの事について質問をする機会もありました。

5月は中本先生が開いた中園教授の講義に参加しました。テーマはスタートアップの経営と研究でした。スタートアップとは大きな成長を継続できる企業のことです。講師はスタートアップ、ベンチャー企業で働いたことやスタートアップの研究の事をプレゼンして、最後にみんなの質問にも答えてくれました。

7月は自分の国のプレゼンテーションを依頼されました。そのプレゼンでは、首都、面積、人口、言語、通貨、気候、伝統料理、観光地、日系社会、農業、牧畜業、電力や日系人が運営している企業、どのように生活をしているのか、パラグアイで最も利益を出している企業、そして日本企業がパラグアイに少しずつ進出している事例を出しました。発表前はとても緊張をしていましたが、パラグアイの魅力を伝えられる事ができたと思います。また、労働市場について中本先生が講義をしました。ホワイト企業とブラック企業の事や現代と昔の就職活動の比較や就職活動に必要な能力、自己分析や企業分析を挙げてくれました。パラグアイにはそういった就職活動がないので、感心しました。

後期講義は10月から始まりました。まず初めに京都大学の若林教授の講義を受けました。テーマはSDGsを意識できる顧客志向型組織でした。その後、各グループに分かれて、企業のケーススタディをしました。私のグループは丸亀製麺を分析することになりました。報告

書とプレゼンを用意することになり、企業概要、業績成績、成長性、投資の魅力、主要事業の独自性やサービス事業の改革とSDGsとしての社会貢献のあり方などを調べることになりました。先生に資料をもらい、以上の点を調べることにしました。最初はデータが見つからず苦戦していたのですが、皆に質問やアドバイスをもらい進めることが出来ました。プレゼンは京大生とインゼミをしました。まず初めに京大生がプレゼンを発表して、次に九大生が発表しました。皆さんの社会貢献の提案やプレゼンはまとまっていて、素晴らしかったです。

1月は丸亀製麺の発表があるので頑張りたいと思います。こうして一年間はあっという間に過ぎようとしています。日本の色んな企業で実施されているSDGsを勉強することが出来てとても嬉しく思っています。パラグアイに帰ったときはこの経験を活かし、自分の地域に貢献したいです。

## アルゼンチン福岡県人会

### 津留 ミカエラ

## 九州大学大学院 歯学府

私は九州大学で歯科技工士について学ぶために日本に来ました。歯科技工士は、歯科医師の指示に基づいて入れ歯や詰め物、矯正装置などを製作し、歯の製作や修理を担当する専門家です。患者さんの歯の形や色に気を配りながら、歯の健康をサポートします。

私は日本での歯科技工士の働き方や使用される材料、技術を学ぶために来ました。特にデジタル技術に興味があり、私の国ではあまり経験したことがありません。日本はその革新性と効率性で知られており、私は特に歯科分野、特に CAD/CAM 技術に焦点を当て、これらの特徴がどのように適用されているかを理解したいと考えています。

ここ数年、歯科領域では技術が大きく進歩し、そのために仕事の進め方も変わりました。かつて手作業で行っていた仕事の一部は、今では CAD/CAM（コンピューター支援設計・製造）を用いて行うことができるようになりました。この革新的な技術は、歯科修復物がどのようにデザインおよび製造されるかを変革しました。日本では、歯科クリニックで CAD/CAM システムを採用することが一般的で効率的です。CAD/CAM 技術を使用してクラウンやブリッジなどの修復物を作成する際の精度と迅速さは感動的です。これらのシステムが修復物の品質を向上させるだけでなく、患者さんの治療時間を最適化する方法について学んでいます。

歯科の CAD/CAM 技術は、すごく面白いものです。このシステムを使うと、歯科技工士は入れ歯やクラウンなどの補綴物を効率的で精密にデザインし、製造することができます。本当に技術の進歩が素晴らしいです。

CAD/CAM の手順について簡単に説明させていただきます。まず、患者さんの口腔からデジタルな型を取るスキャニングプロセスが始まります。この際には口腔内スキャナーが使用され、その後、専門の CAD ソフトウェアを使って技工士が入れ歯やクラウンなどの補綴物を仮想的にデザインし、形状、サイズ、色などの詳細を調整します。次に、補綴物がデザインされた情報はフライス盤や 3D プリンタなどの機械に、CAM ソフトウェアを通じて送信されます。この段階では機械のプログラムが設定され、補綴物が選択された材料を使用して削り出されるか、または 3D プリントされます。最後に、製造後に仕上げが行われ、必要に応じて補綴物が磨き上げられ、調整されます。

CAD/CAM の使い方にはたくさんのメリットがあります。例えば、デジタル技術を使うことでデザインや製造がより正確に行えるようになり、それによって患者さんと歯科の専門家の方々の時間も節約できます。また、個々のニーズに合わせて調整がきくので、よりカスタマイズされた治療ができます。手直しの必要も少なく、デジタルの精度が高いため、追加の調整が最小



限になります。そして何より、同じプロセスを繰り返すごとに、一貫した結果が得られ、再現性も向上します。これらの利点が、CAD/CAM を使った歯科治療の進化に寄与しています。

私の日本での経験は、デジタル歯科の世界に没頭し、CAD/CAM 技術がどのようにして笑顔を作り出す方法を理解する機会を提供してくれました。これらの知識を歯科技工士としてのキャリアに活かしていくことにワクワクしています。

## メキシコ福岡県人会

田中 ゴメス 愛子

九州大学 経済学部

九州大学で経済学部を勉強しています。私は経済や特に経営について興味を持っていて4月から今までさまざまな授業を受けています。春学期と夏学期は経営学演習と外国書講読という授業を受けてみました。両方ともとても面白かったです。そして現在、また経営学演習を受けています。また、ビジネス日本語やキャリア形成基礎という授業を受けています。

授業で学んだことを大まかに説明したいと思います。中でも、マネジメントの授業で学んだことは、組織文化という研究テーマに関係しているので、ご紹介したいと思います。

私たちは、ポール・バーズ著『Corporate Entrepreneurship: Innovation and Strategy in Large Organizations』という英語で書かれた本を書評していました。私は、起業家精神、企業のリーダー、組織の構造、創造性、自主性、社内のモチベーション、そして合併事業についてだけでなく、管理の多くの概念を学びました。それぞれのコンセプトを知ることは、会社を成功させるための一部であるため、非常に重要だと思います。会社にはさまざまなタイプのリーダーシップがあります。たとえば、「放任型」です。つまり、リーダーはチームのメンバーに経験に応じてタスクを実行させるため、必要に応じてメンバーに権限を与える場合を除き、リーダーは干渉しません。

一方で、リーダーがチーム全体を巻き込んで公平に意思決定を行う民主的なリーダーシップもあります。他のタイプのリーダーシップの中でも、社内でどのタイプのリーダーを採用するかを定義するには、それぞれのタイプのリーダーを知ることが非常に重要です。どのタイプのリーダーシップにも長所と短所がありますが、目的を達成するには全員が敬意と調和の環境で働くことが重要です。

理想は、職場環境が良く、チームとリーダーの待遇が良く、意思決定の自由があるなどの「ホワイト企業」で働くことです。ホワイト企業で働けば離職率も低く、雇用保険や健康保険、育児支援などの福利厚生も充実しています。労働条件は最適なので、労働者は他の求人を検討する必要がありません。私は、優れたリーダーシップがホワイト企業を形成し、従業員が幸せに働ける環境を実現すると信じています。

仕事の世界では、創造性を発揮し、社会のために新しいアイデアを開発できる起業家精神が重要であると私は信じています。しかし、それぞれのグループには、ニーズを満たすことができる起業家がいます。

私はバブソン大学の山川先生の起業セミナーに参加する機会がありました。起業家精神について多くの興味深いことを学び、それが新しいことに挑戦し、創造性を発展させる動機になりました。起業家精神は人々の生活を変えることができます。2日間続いたこのセミナー

では、私たちはチームとしてプロジェクトを作成し、市場セグメント向けのソリューションを提案しました。私のチームと私は、日本のビーガンを対象としたプロジェクトを開発しました。これは、ビーガンでも伝統的な日本食を食べる経験をしてもらうためです。現在、ビーガンやベジタリアンには選択肢がありません。特に肉を食べない外国人は日本に住んで日本文化を学ぶことができます。このプロジェクトを行うことで、健康上の問題や味覚の問題で肉を食べない人もいます。誰もが食の壁なく美食を通じて日本を知ることができます。この起業家精神の例を使って、人々の生活の質は改善できることを説明したいと思います。したがって、起業家精神は誰にとっても非常に良い選択肢です。

一方、洋書リーディングの授業では、ジョイントベンチャー、特にフランチャイズについて話しました。

とても興味深い経験でしたし、このような授業に参加できたことにとっても感謝しています。

ペルー福岡県人会

手嶋 儀武 さゆり ナンシー

九州産業大学造形短期大学部

絵画・立体造形系

R 5 県費留学生の手嶋さゆりです。時間が経つのが早すぎて、もうすぐ大学の授業が終わります。この期間でたくさんのことを学び、たくさんを経験をすることができたと思います。

アートのことについていつも興味がありました。美術館や展覧会に行くのが好きで、そこでかなりの時間を過ごして芸術作品を鑑賞しました。子供のころは趣味として自由時間を使って絵を描いていましたが、絵を描くことに専念する時間がなかなか取れず、少しずつ辞めていきました。勉強と仕事で、自分の好きなことに貴重な時間を十分に費やすことができませんでした。

ですから、この機会を利用して自分の好きなことを勉強し、再び絵を描くことへの情熱を見つけました。以上のことから九州産業大学造形短期大学部では絵画を学ぶことになりました。絵について専門的に勉強するのは初めてで、とても興味深く楽しい経験でした。授業での時間をうまく活用して、絵画やデッサンの新しい方法を改善し学ぶことができたと感じています。

この一年間、多くのことを学ぶことができました。どの素材が一番好きで、どの素材があまり好きではないかを識別するのに役立ちました。この期間に自分の絵の描き方を見つけることができたと感じています。ペルーに戻ったら絵を描き続けて技術をもっとあげたいと思っています。よく言われるように、練習すれば完璧になります。また、アートは、思い出、経験、感情を他の人と共有する素晴らしい方法です。

大学の授業について少しお話しますと、現実を表現するデザインの授業がありました。その授業では、初めて人物を描きました。最初はプロポーションのバランスや人物の顔を描くのが大変でした。先生はとても助けてくれました。まだ改善点が多いと思うので、もっと練習して、人を描くのが楽になりたいです。

もうひとつ、これまでの絵画教室の経験と違う点は、モデルを目の前にして絵を描くのが初めての経験でした。授業中、モデルたちは 20 分間静止しました。「こんなに長い間動かないのは大変だろうな」と思いました。そういった体験ができてとても面白かったです。正直、授業中にこんなにたくさんの人を描くとは思っていませんでした。

また、自分の作品で展覧会に参加することもできました。一つ目は天神のギャラリーで、二年生全員が 2 ～ 3 点の作品を展示しました。同級生やお客さんとお話することができました。とても興味深い経験でした。二回目は大学の香椎祭でした。絵画作品だけでなく、陶芸、グラフィックデザイン、プロダクトデザインなどもありました。他の大学生の作品が展示されていて面白かったです。

そして 2024 年には大学の卒業制作展に参加する機会を与えていただきました。今回の展覧会にはペルーをテーマにした作品で参加させていただきます。作品を通して、私の出身国ペルーと美しい風景や自然について少し紹介したいと思います。

授業ではさまざまな画材を試すことができました。デザインの授業では、色々な色合いの鉛筆と木炭を使いました。それぞれを使用するには、異なるテクニックが必要です。鉛筆を使用するには、影がある場所とより明るい場所のトーンを考慮する必要があります。木炭の場合は、使用時にさらに注意が必要です。木炭は柔らかく、色が残りやすいです。ペルーではこれらの画材を深く利用することはありませんでしたが、だからこそ美術に関する知識を広げることができたと思っています。これらの画材を使用するのは非常に興味深く、挑戦的でした。



デザイン授業の作品: 鉛筆 / パステル / 木炭

絵具は油絵具とアクリル絵具を少し使います。どちらかというと、油絵の方が自分の描き方に合っていると思います。アクリルは油に比べて乾燥が早いので少し扱いにくい気がします。また、授業でアラビアゴムを初めて使用する機会がありました。かなり分厚い画材なので塗るのが大変でした。自分のテクニックを完璧にするために、さまざまな画材を使用するのが好きです。



二学期には陶芸の授業に参加することができました。いつも陶芸が好きで興味がありました。集中力と情熱を込めて作品を作り上げる芸術だと考えています。授業を体験することができてとても興味深く、体験することができてとても感謝しています。陶芸はかなりの集中力と根気が必要だと思います。

陶器の作品を作るプロセスはかなり長いですが、楽しかったです。粘土をこね、形を整え、色を付けることを学びました。ろくろの使い方を学ぶことができました。最初はとても緊張していましたが、少しずつ小さな作品が作れるようになりました。

それぞれの作品の色やデザインに驚かされます。陶器の美しいところは、作品が完璧である必要はないということです。それぞれの作品にはそれぞれの魅力があります。ペルーでは、陶芸についてもっと学び続けたいと思っています。



陶芸作品

今年は授業を通してたくさんのことを学ぶことができました。このような機会をいただけてとても嬉しいです。これからも自分のアート技術を磨き続け、より多くの人たちと自分の作品を共有したいと思っています。